小学校五年の部　佳作　――――――　対象作品／斉藤洋著『しろくまだって（斉藤洋のしろくまシリーズ）』小峰書店

ぼくだってマルクのように

弘前大学教育学部附属小学校　成田　歩生

ぼくは、『しろくまだって』という本を読みました。この本を選んだ理由は、題名が「しろくまだって○○したい」と、ぼくたちに何かを伝えているかのように感じたからです。

このお話は、人間の言葉をしゃべれるしろくまの兄弟が主人公の物語です。弟のカールは人間のことをよく知っていて、兄さんのマルクはプロレスが好きです。そして、このしろくまの兄弟は、電気を求めて街にある運送屋で「しろくまのぬいぐるみを着た人間」として働く体験をします。

ぼくは、この本を読んで一番心に残ったところがあります。それは、マルクがプロレスの試合を見に行った時に、反則をよくするマッキークロコダイルという選手が、相手選手を砂がつまったビンでなぐり、気を失わせましたが、レフェリーは見ていなくて、反則にしませんでした。すると、マルクがリングに立ち、ビンでなぐられた選手を助けたところです。ぼくは、マルクが勝手にリングに上がったので、マッキークロコダイルかレフェリーにひ判されるかもしれないのをかくごして、正しい行動をとったのがすごいと思いました。もし、ぼくがマルクと同じ立場だったら、なぐられた選手を助けたい気持ちはあるけれど、ひ判されるかもしれないという気持ちの方が強く、見ているだけで行動することができないと思います。

一か月ほど前に、宿泊学習で野外すい事がありました。ぼくは、家で練習していたので、野菜の切り方はある程度わかっていましたが、他の班の人がとまどっている様子だったので、教えてあげようかなあと思いました。しかし、もしかしたら自分が教えようとしていることがまちがっているのかもしれないと自信がなくなり、ぼくが知っていることの、ほんの少ししか教えることができなかったという出来事がありました。

これからは、マルクの勇気ある行動を見習って、自分が正しいと思ったことは自信をもって行動していきたいと思います。ぼくが自信をもって行動することが、もしかしたら、友

達を助けることにつがなっていくのかもしれないなあとも思いました。